




自治体災害対策全国会議
新型コロナウイルス感染症と災害対応

兵庫県立大学減災復興政策研究科 室崎益輝

- 
- 災害の時代であると同時に感染症の時代である、巨大災害の時代であると同時に複合災害の時代である



- 巨大災害や複合災害に見合う、豊かな共生や減災や再興の文化を育むことが求められている



文明災害としての感染症

感染症の歴史

- 感染症は、文明災害である。生物の出現とともに登場。地球上の自然環境や社会環境（政治、戦争や経済、文化を含む社会環境）の急激な変化がある時に、発生している・・・文明のあり方が問われている
 - 著しい人口移動、交易拡大、侵略戦争などを契機に発生拡大
 - 最近は、急激で無統制なグローバル化・ボーダーレス化の影響を受けて発生
- 中世以降では、ペスト、天然痘、コレラなどが、20世紀以降では、インフルエンザ、エボラ出血熱、エイズなども
 - ウィルス感染を見ると、20世紀に入ってインフルエンザからコロナウイルス
 - 1918 スペイン風邪、1957アジア風邪、1960香港風邪、2009豚インフル
 - 2002 SARS、2012 MERS、2020新型コロナ、・・・

新型コロナの危険性

- 新型コロナウィルスは、今までのウィルスとは違った、「未知のリスク」「暴走のリスク」「連鎖のリスク」を持っている
 - (1) 未知のリスク・・・潜伏期間が長い、集団免疫が見通せない
 - (2) 暴走のリスク・・・ひとたび拡大を許すと、猛スピードで拡散し医療崩壊を招く
ヨーロッパやアメリカでの拡大を他人事と思わない
 - (3) 連鎖のリスク・・・精神面や経済面を含む、社会的連鎖を広範囲に引き起こす

新幹線に乗るだけではコロナの感染は起きない、座席を向かい合わせにしてお酒を飲みつつ大声で話すと感染のリスクが生まれる・・・恐れなさ過ぎても、恐れ過ぎてもいけない

新型コロナへの備え

■ 正しく恐れると同時に、正しく備えることが大切

(1) 必要条件と十分条件

感染防止は起きるための必要条件であるが十分条件ではない・・家族のたん
らんも生きるためには必要

(2) 防疫性と免疫性

感染ルートを絶つという防疫も必要だが、ウィルスを封じ込めるという免疫
は、もっと大切・・家に閉じ込めていると免疫力が下がる

(3) 大局と小局

大局ではコロナ感染防止を優先して文明のひずみと向き合わないといけな
いが、小局ではその場の状況で命を守ることを優先することも

コロナ禍の問いかけ

- 災害が社会のひずみを顕在化すると同様に、コロナ禍も社会とりわけ文明のひずみを顕在化し、その改善を求めている

(1) 新しい生活様式

真に豊かな暮らしとは？

(2) 新しい社会構造

一極集中ではなく自律分散を、差別社会や格差社会の解消を

(3) 新しい科学技術

ハードの限界を乗り越えた、融合的な科学技術のシステムを

(4) 新しい減災文化

避難文化、支援文化、・・・



複合災害への対応

複合災害のリスクの増大

- 地震や火山噴火に関しては活動期、豪雨や台風に関しては激甚期、それに加えてウィルス感染の蔓延期を迎えているので、それら相互の複合は避けられない **被害の足し算と掛け算**

(1) 災害の連鎖拡大

福井地震と九頭竜川氾濫（1948）、洞爺丸台風と岩内大火（1954）など

(2) 災害の同時多発

2018年のように大阪北部、西日本豪雨、台風21号、胆振東部の連続発生

(3) 災害の重複相乗

2020年のようにコロナ禍と豪雨災害その他の重複

コロナ禍での複合災害対応

▶ 複合災害対応・・感染蔓延のリスクにとらわれすぎないように
に 避難控えや支援控えなどを克服する

(1) 公衆衛生

コロナにも多様な災害にも対応できる基礎体力を

(2) 優先順位

命を守る視点から感染防止か災害対応かの優先順位を

(3) 迅速復興

次の災害の発生を念頭においた復興のタイムラインを

(4) 創造進化

コロナ禍でも災害対応ができる技術やシステムの開発を




新しい減災文化の構築

減災の考え方と新しい文化

■ 阪神・淡路大震災で学んだ「減災」の取り組みを、コロナ禍でさらに発展させる必要に迫られている

- (1) 時間の足し算・・事前復興計画と公衆衛生基盤の大切さ
- (2) 空間の足し算・・コミュニティ力の強化、連携の前提としての自律
- (3) 手段の足し算・・災害に強い人づくり、防災士のすそ野を広く
- (4) 人間の足し算・・世代を超えて、地域を超えて、立場を超えて



新しいコミュニティ態勢

- いつも外から支援が得られるとは限らない・・・支援が少なくても立ち上がれる体力を養う
 - (1) コミュニティの中の多様な人材が協働する、事業者も中学生も
 - (2) コミュニティ自身が受援力を持ち、外部支援者受け入れの中心になる
 - (3) コミュニティによる自発的な地区防災計画をもって活動する

新しい支援の社会文化

- コロナ禍でも被災地と被災者に、支援の手を社会全体で差し伸べられるを社会的風土をつくる・・・社会包摂や人権擁護の理念に基づく支援文化を
 - (1) 受動的な支援から能動的な支援に切り替える
 - 支援の障壁を乗り越える開拓精神を持つこと
 - コロナを言い訳にしない
 - (2) 被災者の生活を守る支援制度と環境基準を整備する
 - (3) 地域と共に自治体の減災力の向上をはかる